



自然栽培パーティ その11

編集部=文
text by KOTONONE
河野 豊=写真
photograph by Yutaka Kono

台風もあるさ、

ケンカもするさ。

すべて見て見ていってよ

台風二一号の猛威が、「金賞のオリーブ畑」に壊滅的な被害をもたらした。

取材に訪れたとき、

埼玉福興株式会社は、

拍子抜けするほどに、自然体だった。

「まるごと受け入れ、前に進んでいく」、

埼玉福興の姿勢があふれていた。

なぎ倒された
オリーブの木を見てください

二〇一七年一月二日、台風二
一号が関東に上陸した。この二〇年で、
最大級の規模。

埼玉福興株式会社代表・新井利
昌さんに取材のお願いをしたのは、そ
の直後。返事のメールには、大きな被
害を受けた、オリーブ畑の写真が添付
されていた。二〇一六年「OLIVIE
JAPAN 2016 国際オリーブ
オイルコンテスト」で金賞をとったオリ
ブの畑。超大型台風は、オリーブの枝
をへし折り、根をなぎ倒していったのだ。

「こんな状態でも、取材を受けてい
ただけるんですか」と返信すると、「こ
んな状態だからこそ、です」と返ってき
た。「農業の厳しさを伝えるには、いま
なんだと思います」と。

畑の中にあられた
オリーブの「原生林」

埼玉県熊谷市。かつて、利根川の渡
舟場として栄えたこの地は、繰り返し
起る氾濫がもたらす肥沃な土で、県
下有数の野菜の産地となってきた。そ
の野菜畑の真ただ中に、突如「小



な森」があらわれる。自然栽培のオ
リーブ畑だ。新井代表は、これをオ
リーブの「原生林」と呼ぶ。夏は四〇
度近い高温、冬は氷点下の日もある。
激しい寒暖の差。さらに赤城山から吹
く「赤城おろし」。こうした厳しい環境
はオリーブの生育には適しているのだ
そうだ。

育てているのは、認知症や知的障害、
精神障害を持つメンバー五名ほどの
「グリーンケア班」。この日は、オリーブ
収穫のために、「農業班」のリーダー坂



ちょうどよく色づいている。そろそろ収穫しようとしていたところ、台風にやられた

復旧作業は、1本1本剪定して、
起こしていくことから。スタッフで協力して行う